

2018年の年頭に当たって：「つなぐ」1年に。



新年 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

2018年。埼玉大学は第3期中期目標期間の3年目、中間点に差し掛かります。このところの国のさまざまな議論の場では、国立大学は第3期中期目標期間中にその将来向かうべき方向性を決定し、第4期にはそれを実行していくということが盛んに言われています。中間点とは言え大事な1年になることは間違いありません。みなさんとともに、この新しく重大な年に良いスタートを切りたく思います。

大学の現状認識と現状分析

国レベルの議論を少し紹介しますと、総合科学技術・イノベーション会議では第5期科学技術基本計画での Society 5.0 に対応して、例えば組織対組織の産学連携の推進等、イノベーションの基盤的な力の強化において大学の貢献が求められています。また、未来投資会議での Society 5.0 を支える人材育成、人生 100 年時代構想会議での社会ニーズに対応したリカレント教育など、高等教育改革に関する要望も強く打ち出されています。

さらに、少子化や AI の普及に伴う社会変革に対応して、中央教育審議会では「我が国の高等教育に関する将来構想」が検討され、昨年末には論点整理が示されました。そこには、社会の変化に共通するキーワードは「多様性」であり、多様な価値観の集まるキャンパスから新たな価値が生まれること、予測困難な中で変化に迅速かつ柔軟に対応できる教育研究システムの構築が重要であり、自前主義から脱却し、学部を超え、大学を超えて多様な人的資源を活用すること等が示され、学部には根ざさない学位プログラムや、一法人複数大学についても言及されています。

このように、社会からの国立大学批判や国立大学への要求は益々増大しています。これを社会からの期待と捉え、しっかりとした現状認識と将来予測の下、的確な分析と迅速な決断を大学運営と大学経営の両面から行っていかなくてはなりません。

埼玉大学の機能強化の方向性

このような状況の中、私は学長として、埼玉大学が適切な方向に歩みを進めるべく舵を取ってきました。第3期中期目標期間には、ビジョンとして「埼玉大学 All in One Campus at 首都圏埼玉～多様性と融合の具現化」を掲げ、3つの戦略と11の取組から成るアクションプランの下、機能強化を進めています。文系、理系、教員養成系の多様な学問が、日本人、外国人、社会人の多様な学生と教職員が1キャンパスに集まる埼玉大学。今年も、研究と人材育成という普遍的な知の府としての基盤の強化と、地域活性拠点として首都圏埼玉に根ざした埼玉大学の個性化を2軸に、さらなる機能強化を着実に進め、多様性と融合を具現化します。

機能強化のためのチーム埼玉

そのためにはチームワークが重要です。埼玉大学は一つのチーム。学部という多様なサブチームや、教職員や学生という多様なチーム構成員の満足と活躍をベースとし、埼玉大学総体としての成果を追求することが重要です。「チーム埼玉」として多様性を維持しつつ様々な特色ある融合を起こしていくことが、埼玉大学の有意性、そして優位性につながると考えます。

多様な一人一人が活力の源となって、組織としても多様な光を放ち、そのことがまた構成員の活力に繋がる、といった好循環を作り出したいと、私はずっと思い続けてきました。引き続き、教職員一人一人の意欲と能力を最大限に引き出すための仕組みを構築していきたく思います。現在進めている教員の時間回復プロジェクトもその一つです。チーム埼玉として学内での役教職協働を真に実現していきます。

卒業生の活躍

卒業生も「チーム埼玉」の重要な構成員ですが、今年も卒業生の活躍を紹介できることを嬉しく思います。それは根岸右司さんで、昨年末に日本芸術院の会員になりました。雪景色の油彩で著名な画家で、現在は日展の理事・審査員をお務めですが、1961年に埼玉大学教育学部をご卒業されています。根岸さんには埼玉大学フェローをお受け頂くことになり、1月22日に称号授与式と記念講演会を行います。

「つなぐ」ということ

私の次期学長としての任期は2年。その間に大学は創立70周年を迎えます。昨年末にはそのキャッチフレーズとして「つなげよう未来へ」を公表しました。「あらゆる立場の人をつなぐ架け橋であることが埼玉大学の魅力。例えば、留学生と日本人学生、同窓生と現役学生、地域の人と埼玉大生がつながっています。70年間の人と人の心をつなぐ役割を未来へつないでいってほしい」とは作成者である教養学部4年の上村真由さんの言葉。学長として、とても嬉しい学生からのメッセージです。

ところで、今年の箱根大学駅伝も多くのドラマがありました。中でも、國學院大學が5秒の差でたすきをつなげなかった映像は特に印象深く残りました。つなぐことの重さを感じた次第です。また、東洋大学のスピリッツである「1秒をけずりだせ」も何度も耳にし、心に残った言葉でした。

今年は、この「つなぐ」を一つの重要な keyword として、埼玉大学の将来像を意識しつつ、埼玉大学を輝かせ続けていきたいと思っています。埼玉大学はこれからも、日々の歩みを少しでも前へと着実に進め、歴史をつないでいきます。埼玉大学の、この着実な一歩につながる、皆さん一人一人の今年1年の活躍、健勝を祈念して、私の年頭のメッセージとします。本年もよろしくお願い致します。

学 長 山口 宏 樹